

注 意 報

8 病 第 1 0 2 7 号
平成 1 8 年 5 月 2 4 日

各農業改良普及センター所長 様
各農業協同組合長(営農担当者) 様
各病虫害調査協力員 様
各関係機関長・団体長 様

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

発生予察注意報第 1 号

作物名 **ムギ類**
病虫害名 **赤かび病**

- 1 発生地域 **府内全域**
2 発生時期 **5 月下旬～**
3 発生量 **平年比やや多～多い**
4 注意報発表の根拠

- (1) 5 月上旬以降、曇雨天の日が多く、赤かび病菌の感染に好適な条件が続いている。
(2) 本年のムギの生育は平年よりも遅く、生育はばらついており、ほ場間差が大きい。なお、農業総合研究所内ほ場(亀岡市)では、出穂期は平年比 6 日遅れている(作物部調査)。
(3) 5 月中旬の巡回調査では、本病の発生を認めなかったが、5 月 2 2 日に農業総合研究所内ほ場(農林 6 1 号、無防除)で発生を認めた(発病穂率 0 . 7 %)。
(4) 5 月 2 2 日の京都府農産流通課技術経営支援室による調査では、中丹地域の小麦で発生が認められた。
(5) 週間天気予報(5 月 2 3 日発表)によると、気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の日が多く、降水量は平年並か平年より多い見込みで、1 か月予報(5 月 1 9 日発表)によると、気温は平年並、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込みであり、今後も赤かび病の発病に好適な条件が続くと予想される。

近年、ムギ類の赤かび病による被害粒混入基準が厳しくなり、実需者から高い品質のムギ生産が求められている。

5 防除上の注意事項

- (1)すでに1回目の防除を実施しているほ場も多いが、天候の推移に注意し、追加防除を実施する。追加防除は1回目の防除から7～10日後を目安とする。
- (2)排水不良のほ場では発病が多くなるので、排水対策を実施する。
- (3)適期収穫に努め、収穫後は感染の拡大を防止するため、速やかに乾燥作業を行う。

6 農薬使用の注意事項

- (1)本病防除の主要薬剤であるチオファネートメチル(商品名:トップジンM)は、麦類での使用回数が出穂期以降1回に、また、大麦では使用時期が収穫30日前までに変更されているので注意する。
- (2)農薬の使用に当たっては、農薬使用基準や注意事項を遵守する。
- (3)農薬を散布する場合は、飛散(ドリフト)防止に十分気をつける。
- (4)農薬は最新の登録情報(農林水産省のHP「農薬コーナー」 <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)を確認し、適正に使用する。

表 ムギ類赤かび病に対する主な登録薬剤

	薬剤名	使用濃度・量	使用時期・回数	備考
地上防除	トップジンM粉剤	4kg/10a	収穫14日前/1回*	小麦
	"	"	収穫30日前/1回*	麦類(小麦以外)
	トップジンM水和剤	1000～1500倍	収穫14日前/1回*	小麦
	"	"	収穫30日前/1回*	麦類(小麦以外)
	チルト乳剤25	1000～2000倍	収穫3日前/3回	小麦
	"	"	収穫21日前/1回	大麦
	トリフミン水和剤	1000～2000倍	収穫14日前/3回	麦類
	トリフミン乳剤	1000倍	収穫3日前/3回	小麦
	イオウフロアブル	400～800倍	収穫-日前/5回	麦類
	ベルコート水和剤	1000～2000倍	収穫21日前/2回*	小麦
ベフラン液剤25	1000～2000倍	収穫21日前/2回*	小麦	
無人ヘリ	トップジンMゾル	4倍0.8 $\frac{リットル}{ヘクタール}$ /10a	収穫21日前/1回*	小麦
	"	"	収穫30日前/1回*	麦類(小麦以外)
	チルト乳剤25	8倍0.8 $\frac{リットル}{ヘクタール}$ /10a	収穫7日前/3回	小麦
	"	"	収穫21日前/1回	大麦

*: 出穂後の使用回数

イオウフロアブルは、多発条件では効果が劣ることがあるので、所定範囲の高濃度(400倍)で使用する。